

風しんの予防接種を受ける方へ

1. 風しんとは

- 風しんウイルスによって感染し、発熱、発しん、首のリンパ節の腫れが特徴の病気です。
- 約3日間で症状が消退するので、「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。
- 潜伏期間は2～3週間です。
- 軽い症状の場合もありますが、ときには重篤な合併症も起こり、症状が長引くこともあります。
⇒合併症・・・関節炎、血小板減少性紫斑病(1/3, 000人)、脳炎(1/6, 000人)、稀に溶血性貧血など
- 妊娠初期に感染すると、胎児に感染して「先天性風しん症候群」により、難聴、先天性心疾患、白内障及び網膜症等が高い確率で発生します。

2. ワクチンについて

- 風しん予防ワクチンには、風しんウイルスを弱毒化して作った「風しんワクチン」と麻疹ウイルスと風しんウイルスをそれぞれ弱毒化し混合して作った「麻疹風しん混合ワクチン」の2種類があります。
- ワクチンを接種しても確実に予防できるとは限りませんが、接種した者の約95%以上に免疫の獲得がみられ、20年近く抗体が持続し、自然感染による発症を防ぐことができます。
- ワクチン接種後の副反応については、麻疹や風しんに罹患した時の症状や危険性を考えると、非常に頻度は低く、ごく小さなものです。

3. 予防接種を受けるときの注意

- 予診票は、接種の適否を判断する重要な手掛かりとなります。身体の状態を確認し、責任をもって記入し、接種する医師に正しい情報を提供しましょう。
- わからないことや疑問なことなどは、かかりつけの医師に相談しておきましょう。
- 当日は体調をよく観察し、普段と変化がないか観察しましょう。
- ワクチン接種後は、妊娠にしばらく注意が必要です。(少なくとも2カ月間は避妊が必要です。)

4. 予防接種を受けることができない人

次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはいけません。

- 明らかに発熱している人(37.5度以上)
 - 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなる人
 - 予防接種を接種した際、または他の薬品によって過去に重いアレルギー症状(アナフィラキシー)を起こしたことがある人は、接種前に医師にその旨をよく伝え、指示に従ってください。
 - 妊娠中若しくは妊娠している可能性がある人
 - そのほか、予防接種を受けることが医師により不適当と判断された人
- ※具体的には医師とよく相談してください。

5. 予防接種を受けるに際し、医師によく相談しなければならない人

健康状態及び体質について、次のいずれかに該当すると思われる場合、接種前に必ず医師とよく相談してください。

- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などを有する人
- 風のひきはじめや、極端に体力を消耗している人
- 過去の予防接種後、2日以内に発熱のみられた人及び全身性発しん等のアレルギーを疑う症状がみられた人
- 過去にけいれんの既往のある人
- 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある人

◎予防接種を受けた後の注意

予防接種を受けた後、身体に何か変化があらわれたときは、すぐに医師の診察を受けるようにしましょう。

- 接種後30分は、なるべく医療機関にとどまり様子を観察しましょう。また、接種後24時間は、副反応の出現に注意しましょう。
 - 入浴は差し支えありませんが、注射した部分をこすることはやめましょう。
 - 接種当日は、接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。激しい運動は避けましょう。
- 【再掲】◇ワクチン接種後は、妊娠にしばらく注意が必要です。(少なくとも2カ月は避妊が必要です。)